

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年8月29日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
<p>検証テーマ：「ポスト安倍」へ党内の動きが活発化、オープニング、安倍総理辞任への各国の反応 キング牧師演説記念日に数万人のデモ、香港で保釈された民主派議員が証言</p> <p>【特集】突然の辞任背景は 【特集】“ポスト安倍”加速へ</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ポスト安倍」へ党内の動きが活発化</li> <li>・オープニング</li> <li>・安倍総理辞任への各国の反応</li> <li>・福岡県商業施設での女性刺殺事件の捜査</li> <li>・キング牧師演説記念日に数万人のデモ</li> <li>・池江璃花子選手が1年7ヶ月ぶりに復活</li> <li>・香港で保釈された民主派議員が証言</li> <li>・東京が8月で猛暑日の最多日数を更新</li> <li>・東京の新規感染者数</li> <li>・アメリカで初の再感染事例が確認</li> <li>・千葉県佐倉市で『崖の上のポニョ』一般公開</li> <li>・【特集】突然の辞任背景は</li> <li>・【特集】“ポスト安倍”加速へ</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ポスト安倍」へ党内の動きが活発化：結論→特に問題なし</li> </ul> <p>「ポスト安倍」をめぐる党内の動きについて以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。</p> <p>"安倍総理「総理大臣の職を辞することと致します。」</p> <p>ナレ「昨日、突然の示威表明をした、安倍総理、自民党の各派閥は早くもポスト安倍をめぐり動きを活発化させています。」</p> <p>小竹隼人（報告）「石原伸晃元幹事長を乗せた車です、これから石原派の会合が行われポスト安倍などをめぐり意見交換が行われます。」</p> <p>ナレ「石原派は昼、都内で会合を開き、次期総裁を早期に決めるべきだという意見で一致をしました。」</p> <p>石原伸晃（石原派会長）「緊急事態に鑑みて、早期にリーダーを決めていこう、と。政治に空白を作らない、そういうことを中心に議論しました。」</p> <p>"ナレ「一方、竹下派の竹下会長、地元島根の県連大会に出席した際、総裁選では派閥が一致結束し一人の候補者を推すべきだ、という考えを示しました。」</p> <p>ナレ「二階幹事長は大島衆院議長と会談、今後の国会日程などについて意見を交わしたということです。」</p> <p>石破茂（石破派会長）「これだけ長く国会議員をやり、閣僚も党役員もずいぶん長くやりました。それは己を捨て</p>		

「やらなきゃいかん、そういうような思いはもしご推挙があればやらねばならんということだと思いますがね。」  
 "岸田文雄（岸田派会長）「引き続き政治の責任を果たしていく、次の時代を担うべく、みんなで努力をしていく、こういった気持ちは変わらない。」

ナレ「ポスト安倍の候補者たちも動きを活発化、岸田政調会長は昨夜、緊急の幹部会合を開き、出馬に向け、派閥の結束を確認、岸田氏は頑張りましょう、と支援を求めたということです。」

党内には政策の継続性を重視し、菅官房長官に候補を一本化、無投票での投票を目論む動きも出ています。」  
 "ポスト安倍選びは菅官房長官、岸田政調会長、石破元幹事長の三氏を軸に進むものと見られていますが、党内には茂木外務大臣や河野防衛大臣を推す声も出ています。その河野防衛大臣は今日、アメリカグアムを訪問し、エスパー国防長官と会談。会談後の会見では。」

河野太郎「（記者の『総裁選への出馬は？』との質問に対して）これからしっかりそうしたことについて、考えていきたい、仲間と相談していきたいと思います。」

ナレ「党執行部は来月 15 日前後に国会議員票の比重が重い両院議員総会で新しい総裁を選出する方向で調整を進め。1 日には正式決定したい声ですが、若手議員などから党員を含めた総裁選にするべきだという声が上がっていて、選出方法をめぐる駆け引きも始まっています。」

このトピックに当てられた時間は 185 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「日本の憲政史上最も長く続き、一強と言われた政権の幕切れはあっけないものでした、民意によって幕が引かれたのではなく、病気という本人の都合で政権が終わる、これが冷徹な事実、安倍政治の功罪、どのように教訓を汲み取り、未来に活かすのか、緊急特集で考えます。」とコメントしていた。

このシーンに当てられた時間は 22 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・安倍総理辞任への各国の反応：結論→特に問題なし

安倍総理の辞任への各国の受け止めについて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた

膳場貴子「ではニュースです。安倍総理の辞意表明から一夜明け、アメリカや中国からも様々な反応が出ています、」

日下部正樹「11 月の大統領選を終え、戦うことになるアメリカのトランプ大統領と野党民主党の大統領候補であるバイデン氏も相次いでコメントしました。」

膳場貴子「トランプ大統領は 28 日、安倍総理の辞意表明から半日以上立ってから、『私の素晴らしい友人である安倍総理に最高の敬意を表したい』と語りました。そのうえで『我々は素晴らしい関係を築いてきた。彼にとって辞職の決断はとても厳しいものだったに違いない、彼は偉大な紳士だ』と称賛しました。また民主党の大統領候補のバイデン氏は Twitter に『安倍総理の友情とリーダーシップに感謝する、辞任は悲しいが両国の強力な同盟関係が今後も何世代にも渡り続くと確信している。我が友よ、末永い健康を』と投稿しました。さらに今朝、中国メディアも相次いで論評記事を発表、中国共産党系の国際紙環球時報は 29 日社説で『両国関係の回復のために努力し、中国には強硬であると同時に柔軟でもあった』としています。」

このトピックに当てられた時間は 80 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・キング牧師演説記念日に数万人のデモ：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「アメリカではブラックライブズマター運動以降も警察官等による人種差別に関連した事件

が相次いでいます。28日には首都ワシントンで数万人規模のデモが開かれた他、スポーツ界にもその波紋が広がっています。公民権運動を率いたキング牧師が人種差別の撤廃を求めた演説をしてから57年首都ワシントンでは数万人が人種差別への抗議デモを行いました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。

土居一雄（報告）「ウィスコンシン州で銃撃された黒人男性の父親が現在演説を行っています。」

"警察官に銃撃された黒人男性の父親「若い黒人たちが苦しむ姿をカメラで見るのはあもううんざりだ。」

ナレ「テニスの大坂なおみ選手も抗議のTシャツを着てコートに到着しました。胸にはブラックライブズマター、黒人の命も大切だという文字が記されています。抗議運動への注目を集めることができるという思いから一度は危険を表明した大会で再びプレーすることを決めた大阪はストレート勝ちで決勝への進出を決めました。一方、メジャーリーグは黒人初の選手、ジャッキー・ロビンソンの功績をたたえ全員が42番を背負ってプレーしました。昨日のマーリンズ対メッツでは試合前、両チームが42秒間黙祷、ホームベースにはテニスの大坂も着たあのTシャツがおかれました。すると選手たちはグラウンドをさりボイコット、黒人銃撃事件への抗議で三日間で11試合が延期されました。」

このトピックに当てられた時間は113秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・香港で保釈された民主派議員が証言：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「言論への圧力が強まる香港で、今週逮捕された民主派の議員が保釈後、日本メディアとして初めてJNNの取材に応じました。事件の被害者を容疑者として、扱う不当な捜査だと訴えています。」とのコメントを受けて以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。

"林卓廷（香港立法会、民主派議員）「私たち香港人は怯えない。香港人の怒りはココロの中にある、いつか必ず表に出るでしょう。」

ナレ「昨日、JNNの取材に応じた民主派の香港立法会議員林卓廷氏。林議員は今週、ある容疑で逮捕されました。」

"警察「あなたを逮捕します。」

林議員「なんで私を逮捕するんだ。」

警察「えーと暴動罪。」

林議員「私が暴動に参加したと。」

ナレ「林議員は保釈されましたが不当な逮捕で明らかな民主派への弾圧だと訴えます。事件が起きたのは去年7月、香港北部の駅で謎の白シャツ集団が民主派の黒いシャツを着ていた若者らのグループを襲撃しました。林議員は現場に駆けつけたところを白シャツ集団に襲われ、腕の骨を折り口を18針縫う重症を負いましたが、その様子をネットで配信しました。ところが香港警察はこうした林議員の行為が暴動を扇動した間しているというのです。」

"林議員「私は襲撃事件の承認として証拠収集などに協力し、犯人の特定に力を貸してきた。突然一年後に『暴動を扇動した』と言われるなんて捏造の罪だ。」

ナレ「事件を巡ってはJNNの取材で襲撃犯の反社会勢力と警察との間で密約があった疑いも浮上しています。」元反社会勢力の男性「(反社会勢力の人物から)襲撃前夜に参加できないか誘われた。『警察に逮捕されない』とはっきり言っていた。」

日下部正樹「警察官自身もちゃんと自分で理解していてあぁいったことをしているんでしょうかね。」

林議員「警察は北京(中国政府)の指示に従っている。警察はあるべき原則や信念を捨てた。」

ナレ「林議員は事件の被害者を容疑者として扱う不当な捜査で弾力が激しさを増していると訴えます。」

このトピックに当てられた時間は 182 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 突然の辞任背景は：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「特集です。安倍総理が昨晚、体調悪化を理由に辞意を表明しました。突然の辞任劇の背景には何があったのでしょうか？」とのコメントを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

金平「えー自民党本部の 4 階ですけども、時刻は今年後 3 時ですが、ちょうど緊急の呼びかけで行われている役員会ですね、始まったところです。」

ナレ「昨日、午後自民党本部に、安倍総理と党役員が、急遽集まった。」

金平「二階幹事長ら、そして、安倍総理、安倍総裁の方からですね、辞任の意向を固めたということについての、経緯と理由等についての説明が行われているものと見られます。」

"金平「総理体調の方は、どうですか？今の体調の方は？」

金平「えーエレベーターの中の顔を見たんですけども、なんかちょっと油っけが抜けたというか、淡々として、こうなんか、何かをやり終わったというような、感じの表情でしたですね。えーまもなく 5 時から、注目の安倍総理の記者会見が、官邸で行われます。なぜ辞めるのか。いつ決めたのか。後任はどうなるかなど、コロナウイルス危機のさなかの辞任表明であるだけに、総理自身の口から、国民に対して、きちんとした説明がなされることを望みたいと思います。」

安倍首相「この 7 年 8 カ月、結果を出すために、全身全霊を傾けてまいりました。」

安倍首相「国民の皆様の負託に自信をもって、応えられる状態でなくなる以上、なくなった以上、総理大臣の地位に、ありつづけるべきではないと判断いたしました。」

安倍首相「総理大臣の職を辞することといたします。」

ナレ「突然の辞意表明。理由は、13 年前と同じ、持病の潰瘍性大腸炎だった。」

安倍首相「本年 6 月の定期検診で再発の兆候が見られると、指摘を受けました。」

安倍首相「先月、中頃から、体調に異変が生じ、体力をかなり消耗する状況となりました。さまざまな政策が実践途上にある中、コロナ禍の中、職を辞することとなったことについて、国民の皆様にご心より、心より、お詫びを申し上げます。」

ナレ「およそ 1 時間におよんだ会見。総理が 2013 年 12 月以降、原稿を表示するプロンプターをたびたび使用してきたが、今回は使わなかった。」

記者「今日の、会見ではいつも使ってるプロンプターを使用していないですけど、これはどういったお気持ちで、こういった形で会見に臨まれたのでしょうか？」

安倍首相「このギリギリまでですね、原稿も決まっていなかったこともあり、私も推敲しておりましたので、こういう形になりました。」

ナレ「会見の方法をめぐっては、今年 3 月、こんな場面も」

"司会「以上をもちまして、記者会見を終わります。」

記者「まだ質問があります。」"

ナレ「質問時間が十分でないとして、記者たちから、抗議の声がでたのだ。」

ナレ「こうした会見の対応について、問われた安倍総理は、」

安倍総理「幹事社から質問を受けるというのが、安倍政権の特徴ではなくて、ずーっとおそらく、前の政権もずーっと、それは同じだったと、思います。当然正確性を、総理大臣の発言ですから、これは正確な答弁をしなければいけないわけでありまして、どういう質問がでるかということは想定で作っているということでありまして、」

記者「官僚の付度や、公文書の廃棄・改ざんなど、負の側面も問われたかと思います。十分な説明責任が果たせたとお考えでしょうか？」

安倍首相「国会においては相当、長時間にわたって、えー今挙げられた問題について、私ども答弁をさせていただいていることをごさいます。あの十分かどうかということについてはですね、国民の皆さまがご判断をされるんだらうなど、そう思っております。」

ナレ「総理の辞意表明に、町の人へ、」

"金平「安倍総理やめられましたが」

男性「あー残念だね。いろいろあるけど、でもまあ昔から見れば、よくやってくれたんじゃないの？」"

男性「コロナとか、課題とか、説明責任果たしますって言って、全然してなかったりですね、まあなんか逃げたようにも思えますね。」

(CM)

ナレ「安倍総理の持病、潰瘍性大腸炎は、国が指定する難病だ。大腸の粘膜に炎症が起こって、爛れ、潰瘍などができ、下痢や血便、腹痛などが続く。」

ナレ「この病気の特徴を、東邦大学医療センター佐倉病院の鈴木康夫特任教授は、こう話す。」

鈴木康夫特任教授「一度発病しますと、基本的には、あの一生涯に渡って、その病気とお付き合いすることになるわけです。要は完治というのが、現状では望めないんですね。発症する最大の要因というのがまだ分からないわけですね。」

ナレ「安倍総理と潰瘍性大腸炎との付き合いは長い。2008年2月の手記の中で、こう振り返っている。」

手記「初めて発症したのは、十七歳のころでした。激しい腹痛に襲われ、トイレに駆け込んだところ、夥しい量の下血があり、便器が真っ赤に染まったのです。」

ナレ「神戸製鋼入社後の20代半ばに、潰瘍性大腸炎であると診断され、専門医のいる慶應義塾大学病院を紹介されたという。38歳で政治家になってからも、その病に悩まされていた。」

安倍首相「えー実は長野オリンピックの時に、私の持病の潰瘍性大腸炎が悪くなって、3カ月間入院をしておりました。もう政治家として終わりかな。こんなふうに沈んでいたんですが、テレビで見る長野オリンピックで、清水選手が大活躍。その絶対に諦めない姿に、大きな勇気をもらいました。」

ナレ「この時には、大腸の全摘手術も検討されたほどだったという。」

"手記「一日に、何回もトイレに行かなくてはならないのでは、選挙運動など、政治家としての活動に著しく支障が生じる。」

手記「もう政治家なんて辞めてくださいと、涙ながらに訴えられたこともあります。」"

ナレ「自民党の幹事長、官房長官時代は、いわゆる寛解期で、治まっていたが、2006年9月の、総理就任以降、症状が出始めた。安倍総理の主治医は、当時の慶應義塾大学の消化器内科の日比紀文教授。潰瘍性大腸炎など、いわゆる炎症性腸疾患診療の第一人者だ。」

日比教授「外遊中で、急性胃腸炎にかかれまして、これがさらにこの状態を悪くしたという状況でございまして、」

ナレ「また、大腸がん治療にも精通する高石官均医師も、総理治療チームの一員に加わった。一般の人に比べ、大腸がん罹患する可能性が高いというリスクに備えたチームだった。総理就任の翌年、2007年1月のヨーロッパ歴訪以降、外遊にはたびたび主治医の日比医師が同行した。症状の急変におびえながら、首脳会談などにおびえるのは不安だと、日比医師に同行を懇願したという。また、国内においても、体調が悪化した際は、日比医師や、高石医師が、昼夜を問わず、私邸などに駆け付けた。」

手記「腸壁が刺激されるたび、三十分で一度くらいの頻度で、便意をもよおします。夜もベッドとトイレの往復で、到底・熟睡などできません。」

ナレ「そして、その年の9月、内閣改造を断行し、国会で所信表明演説をしたわずか二日後、」

"安倍首相「本日、総理の職を辞するべきと決意を致しました。」

ナレ「突然の辞任後、安倍総理は、潰瘍性大腸炎の新薬、アサコールと出会う。この薬で病気をほぼ抑えることが可能となった。」 "

"安倍首相（2012年9月）「全身をなげうって、立ち向かえとの同志の声にこたえていく。」

ナレ「そして、2012年12月の第二次安倍政権発足へとつながった。」 "

"ナレ「病院の関係者はこう証言する。」

病院関係者「アサコールの治療後は、体調に深刻な問題が生じることはほとんどなくなり、総理ご本人も、薬の効果に驚かれています。」 "

"ナレ「だが、今年、」

病院関係者「コロナの感染が拡大した4月5月ごろから、ストレスがたまり、体調の変化を感じていたようです。」

"

ナレ「潰瘍性大腸炎は、ストレスで悪化することもあるという。そして、」

安倍首相（きのう）「6月の定期健診で、再発の兆候が見られると、指摘を受けました。その後も薬を使いながら、全力で職務にあたっていました。先月中頃から、体調に異変が生じ、体力をかなり消耗する状況となりました。」

ナレ「潰瘍性大腸炎の再発が疑われ、治療チームの中で、治療法の再検討が行われた。その結果、医師団の中から、入院を勧める声も出たという。今月17日に、慶応義塾病院で、大腸内視鏡による検査が行われ、新しい点滴治療も試された。24日の二度目の通院では、その点滴治療の効果も見られたという。」

ナレ「鈴木医師は、今回の安倍総理の決断をこう分析する。」

"鈴木特任教授「普通、潰瘍性大腸炎の重症ってのは、だいたい入院しますから、もちろん重症ではないわけですが、まあ中等症で悪化されて従来のいままですら総理が継続してた治療では改善しないということで、次のステップの治療を選ばれたんだろうと」

鈴木特任教授「激務の中で、いくら効果があっても、それを継続しなくちゃいけない。いろんな意味合いを考えて、この場を選ばれたんだろうなど。」 "

(CM)

CMを挟み、スタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返されていた。

"膳場「スタジオには潰瘍性大腸炎の専門医で東邦大学の鈴木康夫特任教授にきていただきました。よろしくお願いいたします。」

鈴木康夫特任教授「よろしくお願いいたします。」 "

膳場「鈴木先生は、厚労省の潰瘍性大腸炎研究班の班長を、今年の3月まで長年にわたって、勤めていらしたということで、この病気というのはどう考えたらいいんでしょうか？」

鈴木康夫特任教授「はい、あの一厚生労働省が、指定している指定難病ってのがございます。その一つに数えられているわけですので、なぜかっていうと、原因不明で、完治ができない、それから慢性に経過するという特徴がありまして、まあそのために長期に発病後は、その病気を継続して治療していかないといけない。ただ残念な。」

鈴木康夫特任教授「そしてもう一つ特徴的なのは本邦において、最近非常に患者数が増加しておりまして、以前、

ちょうど20年前に、実は疫学研究がございまして、その、間に10倍に増えて、結構、現在22万人いると、そういうような状況になって、世界でも実は一国の患者数では、米国に次ぐ、2番目に多い病気だというふうになっております」

膳場「はい。安倍総理はこの潰瘍性大腸炎長いことコントロールしながら来ているわけですがけれども、多くの患者さんと接する中で、見出してきたものってありますか？」

鈴木特任教授「はい、一つは、その寛解導入方法って発病したら、それをよくする治療ですが、それだけでは先ほどもうしましたように、あの一再発を繰り返しますので、しっかりと寛解維持療法を継続していくと、いうことが大事です。ただ、残念ながらその中で、何らかの要因で再発をしてしまうということがあって、それがなかなかコントロールが難しいケースが出てまいります。まあそういったケースに対して、どう治療していくかということで、我々も苦勞してやっているわけでありまして。」

膳場「昨日の会見の中で、あの点滴など新しい治療法があるということ触れてましたけれども、病気をめぐる環境も変わってきているということでしょうか？」

鈴木康夫特任教授「はい、あの、幸いなことにこの近年特に、この10年の間にですね、非常に新しい治療法が次々と登場してまいりまして、点滴やあるいは皮下注射。導入数を含めてですけど、非常に新規の新しい治療法が、次々に出て、まあ難治な患者さんでも、かなりコントロールができるような時代になったと考えています。」

日下部「ある意味まあ、当時の新薬ですけども、アサコールがなかったらですね、第二次安倍政権はなかった。あるいはあったとしてもですね、長期化することは無理だったっていうね、ちょっと極端かもしれませんが、その可能性もあったわけですね。」

鈴木康夫特任教授「はい、あの一まあ幸いに総理はアサコールをお飲みになって、よくなったご自身でもおっしゃってて、その後長期にわたって激務に耐えられたんだと。それを継続して服用して、寛解維持をしっかりと図られたということが、今日まで体調を整えて、激務に耐えられたんだらうと思います。」

鈴木康夫特任教授「ただ、今回は残念ながら、そのような治療では、病状がコントロールできない状態になったのかなあと推察するところです。」

膳場「鈴木先生どうもありがとうございました。」

この特集に当てられた時間は1194秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

#### ・【特集】“ポスト安倍”加速へ：結論→問題あり

膳場キャスターの「さて続いては連続在職日数で最長を更新したばかりの安倍総理、7年半に及ぶ一強体制、一強政治は何をもたらしたのでしょうか、そしてポスト安倍の行方は。」とのコメントを受けて以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。

"ナレ「祖父は岸信介元総理大臣。父は安倍晋太郎元外務大臣、三代世襲の安倍総理はどのようにして誕生したのか。TBSの倉庫に貴重な映像が残されていた。祖父の岸元総理を追ったものだが、その中に当時三歳の安倍総理が写っている。」

記者「お孫さんはおふたりっきりでいらっしゃいますか。」

岸信介「二人きりです。二人きりです。娘の方にできた孫です。」

記者「そうですかあ。」

岸信介「僕はいくつだ？ん？」

記者「手が出て、ふたりとも丈夫そうで。」

岸信介「特に、この弟のほうはね、これやっぱり乱暴者で。お、きちんとしなきゃだめだよ、あそこでうつりま

すよ」

ナレ「この2年後、岸内閣は日米安保条約の改訂に乗り出す。まだ5歳だった安倍総理は祖父の家によく通っていたが岸邸は連日デモ隊に囲まれていた。弟の岸信夫衆議院議員は当時の安倍総理のことを両親から聞いていた。」

岸信夫「兄はだいたい、テレビで安保反対安保反対ってやっていますから、それを見て家の中でもこう、手を振り上げながら安保反対ってやっているわけですね。まあそれを見て、まあ起こるでもなくにこやかにしていたというのは祖父がね、そういうような話はよく聞きますよね。」

"ナレ「小学四年生の時に家庭教師をしていた平沢勝栄衆議院議員は安倍総理のエピソードをこう話します。」

平沢勝栄「東大の駒場祭に、駒場祭に安倍さんの兄弟を連れて行ったことがあるんですよ、その時の駒場祭というのは反佐藤一色ですよ、当時佐藤内閣ですけども、ショーとかいろんなのをやっているんですけども、佐藤を倒せ、佐藤を倒せ、と、こういう企画ですよ。晋三さんはね、『なんで、佐藤さんがね、こんなにいじめられなければならないの』というようなことを言ってましたけれども。」

"ナレ「岸元総理は60年安保で退陣を迫られ、70年安保では大叔父の佐藤栄作氏が総理として強い批判にされされた。子供心に親族が批判されることに強い反発を抱いたのか、小学校の卒業記念に録音された安倍総理の声が残っていた。」

安倍晋三「入学式からあつという間に6年間に過ぎてしまった、これからはもっと充実した中学校生活が始まる、けれど小学校生活のときのように楽しく過ごしていこうと思う、これからも小学校の時の経験を生かしてやっていこうと思います、安倍晋三。」

ナレ「その後、高校に進学した安倍総理、倫理社会の授業で『安保条約は日本の反映に役立たない、日本を戦争に引きずり込むものだ』と発言した高校の教師に対し、高反論したとという。」

安倍晋三（2006年2月26日放送）「祖父から色んな話も、また父からも話を聞いたので、まあ安保について肯定的な意見を何回か述べたことがありますよね、経済条項というのも結構意味があるんだ落ちう話もしたんですね。」

ナレ「日米安保条約第二条は日本の経済協力の促進も歌っている、日米安保条約の元経済優先の政策が日本の高度経済成長を支えたと主張したのだ。」

安倍晋三（2006年2月26日放送）「そうすると先生はじめ、皆さん黙っていたんですね、それはやはり、そういうことを全然知らないわけですね。で、私もよく読んでいたのかと言われたらそうではないのですが、それは祖父から第二条の経済条項というのは日本の発展にとって大きな意味があったと来ていたものですから、ですからその時にまあ反対をしている人たちもこんなものなんだなというふうに思ったのを思い出しましたね。」

"ナレ「安倍総理は大学卒業後、三年間の神戸製鋼勤務を経て、父晋太郎元外務大臣の秘書官になる、9年間務める中で総理総裁に上り詰めようとする父を間近で見てきた。だが、1991年、総理の椅子を目前に晋太郎氏が膀胱がんで高い。その二年後、父の地盤を受け継ぎ山口一区から出馬、初当選し政治家の道を歩み続けた。その後、内閣官房副長官や自民党幹事長を歴任し、2005年、第三次小泉改造内閣で官房長官に、その頃から次期総理の有力候補と言われるようになった、当時の心境を色紙にこう書いていた。」

安倍晋三（2005年）「これはあの、よく父も、また祖父も書いていたんですが、不動心という、こう事にあたってたじろがずにいきたいという思いを込めて書いているんですよ。」

ナレ「そして2006年9月、戦後最年少の52歳で総理大臣に就任した。」

(CM)

"ナレ「7年8ヶ月間に及んだ第二次安倍政権、今週月曜に連続在任日数で歴代最長となったばかりの安倍総理だ



ったが、突然の辞意表明によって多くの政治課題が棚上げされることになった。大胆な金融緩和を盛り込んだ、いわゆるアベノミクスの推進などを打ち出したが道半ばでの退陣となり、長期政権によるおごり、緩みと批判されてきた問題も救命が遠く恐れが出てきて、総理主催の桜を見る会では後援者らを優遇していたという疑惑が浮上、公的行事の私物化だと問題視された、また、加計学園の獣医学部の新設を巡っては事業が国家戦略特区として認められた背景に総理の意向が反映されていたのではないかと、として、追求を受けた。さらに国有地が8億円以上もエビきされ、売却されていた森友学園の問題、学園が新設する小学校の名誉校長に昭恵夫人が就任していたことから疑惑が深まった。」

安倍総理（2017年2月）「私や妻が関係していたということになれば、これはもう、まさにこれはもう私は総理大臣はも、それはもう間違いなく総理大臣も国会議員もやめるということのはっきりと申し上げておきたい。」  
なれ公文書の改ざんを強要されたことでうつ病を発症し自殺した赤木俊夫さん。先月、報道特集の取材に応じた、妻の雅子さんは。」

赤木雅子さん「もう自分のことを叩いたりとか、あの叩いて叫んだりとか、もう、人間が壊れていく姿をずっと見ていたのが一番つらくて。」

"ナレ「雅子さんは今年3月、国と財務省の理財局長だった佐川宣寿氏を相手に損害賠償を求めて提訴した。」

赤木雅子さん「こんなこと、本当はしたくないけど、夫のために頑張ろうと勇気を振り絞っています。」

ナレ「安倍総理と麻生財務大臣はこの問題の再調査をしない考えを示してきた。」

赤木雅子さん「安倍首相や麻生大臣が言っているのは自分たちを守ろうとしていると思うので、何のためにいらっしゃるのか、意味がないと思います。」

ナレ「昨日、安倍総理は森友、加計、桜を見る会と疑惑を招いた一連の問題についてこう語った。」

安倍総理「私は政権を私物化したというつもりは全くありませんし、私物化もしておりません。まさに国家国民のために全力を尽くしてきたつもりでございます。」

ナレ「改めて疑惑を否定した安倍総理、赤木さんの妻、雅子さんはどう受け止めたのか。」

金平茂紀「それをお聞きになってですね、一番強く感じたことはなんですか。」

赤木雅子さん「やはりあの、今私がお願いしている再調査、第三者による夫のことを調べていただく、再調査をですね、あの有耶無耶になったままおやめになるんだなと思いました。」

ナレ「夫の死の真相を知るためにも安倍総理はこの問題を次のリーダーに引き継いでほしいと話す。」

赤木雅子さん「一言再調査を勧めてくださる一声があれば、きっと安倍首相が一声出してくれたら簡単に調べられると思うので、ちゃんと本当のことを知れるような対策をとってほしい、逃げないでほしいです。もう今の状況は逃げているように思う、もう病気は本当にお気の毒なので、おつかれさまと思いますけれども、でもひところ夫のことをちゃんと調べるようにと一言残してやめてほしいなと思います。」

"ナレ「沖縄普天間基地の辺野古移設。安倍政権はおとし12月埋め立て予定海域への土砂投入に踏み切った。耕治が進む中での辞任、昨日玉城知事は。」

玉城デニー「まあ辞任の移行を表明されたことについては大変、驚いています、辺野古の現在の工事を直ちに中止をし、私たち沖縄県と対話の場を作っていただいて、真摯にその居力競技に応じていただきたいと思います。」

ナレ「辺野古の近くに住む渡具知武清さん、県民に寄り添うとの言葉を繰り返してきた安倍政権をこう振り返る。」

渡具知武清「口では丁寧な言葉を使っても中身は全然ないですよ、彼は。県民に寄り添ってやります、とあたかももう本当に騙されたなという気持ちですね。」

ナレ「渡具知さんは20年以上前から一家で基地の建設に反対してきた、夫婦は総理の交代にこんな期待もにじませる。」

渡具知武清「また自然に戻すとかそういう考えを持って人が出てくるというのを期待しているんですよ。」

渡具知佳子「期待せざるを得ないっていうの、本当にもう何ていうのかな、一般県民の心が届かないような政治になっているので、全てにおいて、そういう意味での期待と思うんです、主人も。」

ナレ「辺野古には直接足を運ぶこと無く終わった安倍総理。新しい総理大臣には是非へのこの現状を見に来てほしいと渡具知さんはいう。」

渡具知武清「うちらとしてはなくなるのはあもうすごく大きいんですよ、普通に戻るんですよ、生活が。それをわかってほしいんですよ、見てくださいよ、だからこっちに来てちゃんとこんなあの自然、まだ回復は可能なんですから。」

(CM)

"ナレ「安倍政権下では幾度となく国会や総理官邸前で抗議の声が上がった。2013年、特定秘密保護法。2015年、集団的自衛権の行使を可能にする安全保障関連法、2017年、テロ等準備罪、事あるごとに一強多弱、与党議員の数の力で野党の反対を押し切ってきた、その数の力を持ってしても成し遂げられなかったのが悲願の憲法改正だ。」

安倍総理「憲法改正、志半ばで職を去ることは、断腸の思いであります。」

ナレ「東京大学名誉教授で政治学者の御厨貴さんはこう指摘する。」

御厨貴（東京大学名誉教授）「彼は、要するに憲法改正をずっと言い続けてきた総理としては残りますけれども、そういうムード作りをしたというだけだよ、憲法改正をしてこの国をどうしたいっていう目標を彼は言わなかったから。」

膳場貴子「国民的な議論にまではなっていないと。」

御厨貴「それを警戒するような動きが出たりしますからね、乗り越えるというような気はやっぱりなかった。で、自分の内閣だけではできないかもしれないけれどもとにかくそういう突っ走る、っていうそういう覚悟もそれからそういうやり方も一切彼はしませんでしたから。だからこれは成果であるとは到底言えない。」

"ナレ「いわゆる森友、加計、桜を見る会など数々のスキャンダルの対応にも苦言を呈す。」

御厨貴「一応説明はするんだけど、説明が足りないといわれるともう、それから後は知らん顔。一切やらない、選挙で片付けるんですよ、この内閣は、あゝ六回あった選挙で衆議院参議院、全部勝ちましたからね、選挙に勝ちさえすれば何やってもいいんだという綱紀の緩みが出ている。」

ナレ「次の総裁に御厨さんが期待するのは国民に語りかける姿勢だ。」

御厨貴「政権基盤というのは多分、今の政権より誰がなっても弱いですから大きな約束を国民との間にやるということ、これだと思いますね、国民全体に語りかけて何を共有、みんなで共有するのか、安倍方式でやるとしたら国民は完全に離れる。」

ナレ「今後の焦点はいわゆるポスト安倍を巡る動きだ。」

"有力候補として名前が上がる岸田政調会長は早速総裁選出馬に向けた意欲をにじませた。」

記者「総裁選びとかですね、あるいは公認選びに立候補なさるといってお気持ちは今でもありますですか、」

岸田文雄（政調会長）「私の気持ちは今まで通り、次を担うべくしっかり努力をしていく、その気持ちは変わっていないということを申し上げております。」

ナレ「当選同期で安倍総理からの信頼も厚く周辺も安倍さんは岸田さんを押ししてくれるはず、と期待を寄せる。"

"SNSでの発信力の高さにも注目が集まる河野防衛大臣は。」

記者「総理が表明されましたけれども。」

河野太郎（防衛相）「自分の仕事をまずやらないと。」

記者「総裁選への意欲はいかがでしょうか。」

河野太郎「……」

"ナレ「8年近く政権を支えてきた菅官房長官も有力候補の一人だ。その菅うじとの距離の近さが目立つのが、」

記者「二階幹事長が到着しました。これから菅官房長官との会合に向かいます。」

ナレ「6月、7月、8月とこれまでなかった頻度で会合を開き、ポスト安倍を含む今後の人事や政局について意見交換したのではという憶測が広がった。きのう、TBSの番組に出演した二階幹事長は。」

出演者「菅官房長官のリーダーとしての資質はどういうふうにご覧になっていますか。」

二階俊博（自民党幹事長）「私は立派なものだと想いますよ、そういうことに指名されればね、十分その任に耐える、そういう人材だと思います。当然有力候補者の一人でしょうね。」

"ナレ「そして、世論からの支持が高く、これまで二度総裁選で安倍総理と戦ってきた石破元幹事長も出馬を検討している。」

膳場貴子「当然総裁選を行うとなったら石破さんは立候補しないことはない。」

石破茂（自民党元幹事長）「自分が果たすべき責任ってなんなんだろうね、ってことなんです。多くの方々で石破総裁ってのを見てみたいなあと思っていていただいているわけですし、この厳しい中で19人の同志ずっと支えてくれているわけですね、そういう人たちの思いを無にするくらいだったら、政治家をやっている意味はないでしょう。」

膳場貴子「でも次に総裁になる方っていうのは選挙も控えていますし、まあ課題は山積ですよ。」

石破茂「史上最大の貧乏くじだという人もいますよ。」

"ナレ「次期総裁をどのように決めるのか注目が集まるのは選出を決める議論の行方だ。」

安倍総理「次の自民党総裁をどのように選出していくかということはこれはもう執行部、などにおまかせをしておりますので、私が申し上げることもないと思いますし、誰がということにも私が申し上げることではないだろう、と思っていおります。」

ナレ「通常、総裁選は3年の任期満了に合わせて当所属国会議員と全国の黨員などの票の合計で競われることになっている。告示から投票までに12日以上選挙期間が設けられる。しかし、緊急時は党大会に変わり両院議員総会で総裁を選出できるという規定が党則にある。より短い期間で選ぶことを可能にするためだ。」

記者「可能性としてはいかがだというふうに思われますか、総裁選について。」

森山裕（自民党国対委員長）「まず速やかに選ばなければなりませんので、そのことを前提として党則に則ってやると思います。」

記者「速やかにという意味はつまり両院議員総会とかそういうものに変えるということですか。」

森山裕「それも一つのルールですから。」

記者「ルール？」

森山裕「ルールです、党則でありますので。」

ナレ「自民党は来月1日にも総務会を開いて選出方法を決めるとしてみますが、両院議員総会を行う方向で調整に入ったという。この場合、黨員らによる投票は省略され、当所属による国会議員と各都道府県連の代表3人による投票のみで総裁が選出される。国会議員票が全体の4分の3を占めるため、地方の意向が反映されにくくなるという側面がある。」

"地方黨員からの支持が強いとされる石破氏は両院議員総会の開催に反対の意向を示している。」

石破茂「両院議員総会なんかでやっちゃだめですって、それはだってねえ黨員の権利を剥奪しといて、剥奪というか行使させないですよ、総選挙はみんな頑張ってくれとか参議院選挙は頑張ってくれとかそんな話は通りま

すかね。」 "

"ナレ「2012年の総裁選で石破氏に票を投じた小泉環境大臣も。」

小泉進次郎（環境相）「次の総裁、総理が誰であっても私は全職員に投票の機会があることが望ましいと思います、そのことが自民党だけではなくて政治の信頼回復にプラスになると思います。」

ナレ「果たして自民党総裁選の行方は。」 "

VTRを受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返されていた。

"膳場貴子「ここからはTBSの遊佐勝美政治部長とともにお伝えしていきますよろしくお願いたします。」

遊佐勝美「よろしくお願いたします。」

膳場貴子「後任の総裁を選ぶ方法、この方法によって結果が変わってしまう、まあ次の総理が変わってしまうということですよ。」

遊佐勝美「そうなんですよね、VTRにもありましたように党員投票を加えたフルサイズの総裁選と両院議員総会で選ぶのかというのは地方の意見をどれだけ汲み取れるか違いがありますから、結果を大きく左右する可能性があるわけですよ、私共の取材によると若手議員を中心に党員投票を行うべきだという署名集めの動きが徐々に広がっておりまして、自民党の執行部は来週火曜日のその方式を決めたいというふうに考えているんですけども一波乱あるかもしれませんね。」 "

"膳場貴子「今の所の有力候補をおさらいしておきたいんですけども、」

遊佐勝美「こちらフリップをご覧ください。こちらですね四人を中心に、現在のところですけど動く気配でございまして、石破さんと岸田さんは既に意欲を示しています、そして菅さんは菅官房長官、官房長官ということで政策の継続性を重視するとやっぱり菅さんがいいんじゃないかという声が自民党内で強まっています、そして河野防衛大臣ですよ、河野防衛大臣は安倍総理の盟友の麻生さんの派閥の一員ですから、麻生さんが河野さんをまあ支援するのか立候補を認めるのかどうかということがポイントですよ。そして大きく鍵を握ると見られているのがこの二階幹事長でして、二階さんの派閥というのは総裁候補を持ちませんので、二階さんの一存で誰を支援するのか、応援するのかをスピーディに決められる強みがあるんですね、しかも二階さんは石破さんとも岸田さんとも菅さんとも良好な関係を築いていますので二階さんの動向については非常に注目されているところなんです。」 "

金平茂紀「遊佐さんね、あの、ちゃぶ台返しするわけではないんですけどもね、次の総理は誰かという、まあ言葉悪いですけど、競馬の予想みたいな話題にいくアメにですね、やっぱり安倍政権の功罪について冷徹な検証をやるのが僕は必要じゃないかと思うですね、その安倍政権の負の遺産をきちんと清算して教訓を次に生かしていくことっていうのがすごく大事なことだとあのVTRにありましたね、財務省の文書改ざんを押し付けられて自殺した近畿財務局の妻の赤木雅子さんの言葉を補っておきますとね、自分の夫は心の病気になって死んだんだ、死を選んだんだ、と。病気で辞任する安倍さんだからこそその苦しみを理解できるはずだ、きちんと再調査を命じて辞任してほしいというふうに仰ってしまってますね、後ね、沖縄ですよ、沖縄については歴代の政権の中で私は取材をずっとしていたんですけども最も沖縄に対して冷淡な冷たかったのが安倍政権ではないかと、これは地元の人がみんな言っていますね。で、あの翁長前知事がですね本土政府との軋轢の中でがんでなくなっていったということが今でも心のなかで刻まれているんですけどもね、次の総理はですね、ぜひそういう教訓を汲み取ってほしいものだというふうに私は取材を通じて思いましたですね。」

"膳場貴子「あの、今回ね、病気を理由に辞意表明をしたことでこれまでの安倍内閣が行ってきた問題、様々な問題への責任追及がなされない、真実がこう葬り去られてしまうのではないかという懸念が国民の中には少なからずあると思うんですね。で、あの御厨さんの言葉を借りればですね自民党は安倍さんに全部背負ってもらって幕

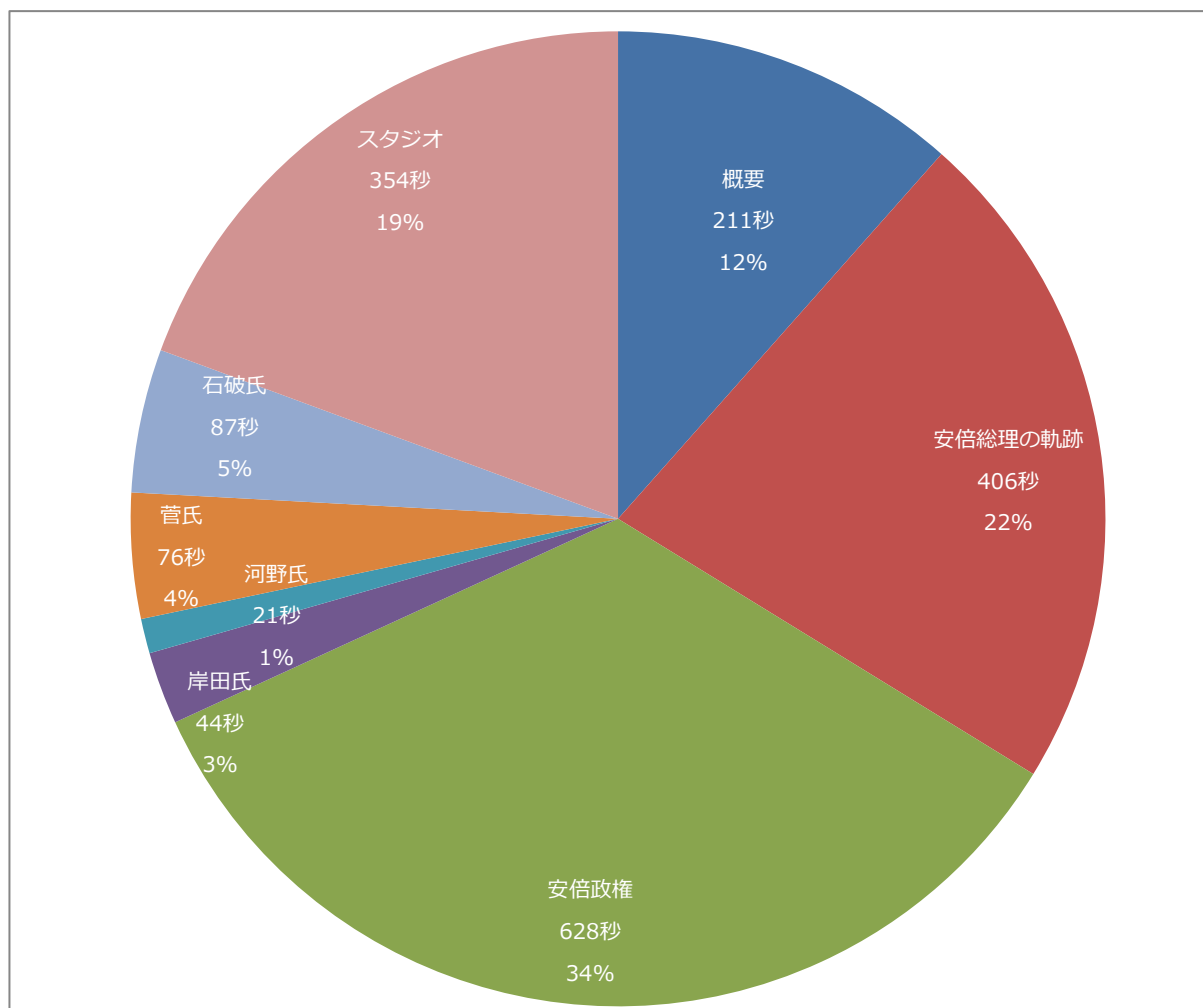
引きしたいんではないかということですがけれども、安倍政権の間に募った国民の政治に対する負担、不信感、というのは政権与党は向き合っていかなきゃいけない必要があると思うんですけども、遊佐さんどう思いますか。」

遊佐勝美「そうですね、私はやっぱりこの政権で一番残念だったのは国民の共有財産である公文書ですとか記録をですねこの政権は大事に扱ってきたんだろうかという問題があると思うんですけども、その最たるのがやっぱり財務省の決裁文書の改ざんの問題で、この決裁文書の改ざんという前代未聞の事件がですね、問題がですね、どうして起きたのかという根本的なことって解明されていませんよね、やっぱり検証って必要だと思いますよね。」

日下部正樹「あの、7年反のですね安倍政権をですね、ある意味象徴する数字があるのでちょっと紹介したいと思うんですけども、これは国際的な NGO 組織である国境なき記者団がですね毎年発表している報道の自由度ランキングをグラフ化したものです。対象の 180 カ国中の日本は一時は 11 位まで上がったんですけども安倍政権家で急落して一旦は 72 位、そして今年は 60 位です。まあ G7 の中では最低。韓国や台湾も 40 位台ですから水を開けられた形になっています。安倍政権のメディア対応がですね、勿論影響しているんでしょうけれども、日本は独裁国家ではありません、長期に渡るこの低迷の原因の一つは私たちメディアにあります、この 7 年版、メディアは権力の監視という基本的な役割を果たしてきたんでしょうか。付度や自主規制などはなかったんでしょうか現場の記者たちだけではなくてメディア全体に問われている問題だと思います。」

膳場貴子「今日は安倍総理の辞任を受けまして緊急特集でお伝えいたしました。」

この特集に当てられた時間は 1827 秒で時間配分などは以下の通りであった。



ポスト安倍有力者への時間配分は各氏に大差はなく、その点においては特に問題は見られなかった。

他方で、スタジオでは日下部キャスターが安倍政権の評価として国際 NGO 組織である国境なき記者団がすでに公表している報道の自由度ランキングを引き合いに出していたが、この順位のもととなっている指標がどのようにして集計されているかということについては一切補足がなく、国境なき記者団の独自の見解を一方向的に垂れ流しつつ政権を批判するという格好になってしまっており、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点に照らすといささか問題のあるものであった。

また膳場キャスターが「安倍政権の間に募った国民の政治に対する負担、不信感、というのは政権与党は向き合っていかなきゃいけない必要があると思う」とコメントするなど、スタジオの論調は概ね、安倍政権と政治不信を結びつけるものであったが、政権交代が可能であり、かつそもそも安倍政権自体が民主党から政権を選挙によって奪取したことで成立した政権であり、過去六回の国政選挙のすべてに勝ったからこそその長期政権となっていることは見落としてはならないだろう。

政治への不審が募るような政権が果たして選挙で連戦連勝という結果を残す事ができるのだろうか。

スタジオの各氏が自分たちの価値観にとられるあまりに、あまりにも選挙によって示された国民の民意を軽視し過ぎており、明らかに政治的な公平性を欠いた論調となっていたと考えられる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターがオープニングで「日本の憲政史上最も長く続き、一強と言われた政権の幕切れはあっけないものでした、民意によって幕が引かれたのではなく、病気という本人の都合で政権が終わる、これが冷徹な事実、アベ政治の功罪、どのように教訓を汲み取り、未来に活かすのか、緊急特集で考えます。」とコメントしていたが、安倍政権は過去 6 回の国政選挙で全戦全勝という戦績を残している。金平キャスターが受け止めるべき現実はこの安倍自民党の戦績であろう。

そもそも政権の幕引きは病気、本人が続投意欲を失う、再選禁止規定、党内の政変、暗殺くらいしか思いつかないのだが、勿論これらはいずれも民意による幕引きではない。

そして、平成を振り返ってみても歴代政権のうち民意によって幕が引かれた政権は宮澤喜一政権と麻生太郎政権、そして野田佳彦政権くらいしか例がなく、後は病気であったり本人が続投意欲をなくしたり、党内の政局だったり民意とは関係のない事情での幕引きであり、民意によらない幕引きは何も安倍政権だけではなかったという事実を金平キャスターは振り返るべきであろう。